

■都市課題

- 徒歩＋公共交通中心への転換
- 健康づくりのための都市空間の構築に向けた身体活動の推進
- 賑わい空間の創出実現・回遊性の向上

■解決方策

- 健康寿命の延伸、ウォーカブルなまちづくり、公民連携のエリアマネジメントをICTをもとに展開

■KPI

- 賑わい：滞在時間、来訪者数
- 交通：外出率、公共交通分担率
- 健康：歩数、歩行時間
- データ：データ利活用件数、新規事業件数

■実証実験の概要・目的

国が勧めるREST+JSONが実現可能なNGSI準拠のAPIによって、多様な企業によるデータ連携が容易に可能なデータ連携基盤を構築。また、「API＝商品」とする先進的な仕組みを採用するとともに、事業者へのアンケートやヒアリングを通して持続的な事業モデルの可能性について検討。

■実証実験の内容

実証①：まちづくりに係る官民データの一体的な利用環境の整備

- 「多様な民間のデータを収集・連携する仕組み」の構築に向けて、データ提供者へデータ販売費を還元できる「データ取引所」形式のデータ連携基盤を構築し、その有効性を検証する
- その際、一つデータプラットフォームにすべてのデータを格納するのではなく、多様な主体が保有するデータを効率的に運用するため、分散型のデータ連携基盤の構築を目指す。具体的には、データそのものではなく、データの「API」を商品としてやり取りする方式を採用する

実証②：データ利用環境の持続的な利活用・運営に向けた事業モデルの検証

- 「データ取引所」を持続的に運用していくためには、採算性・有用性等の観点を検討し、事業モデルとして成立している必要
- 「実証1」で構築する「データ取引所」のシステムをベースに、利用者候補として想定される事業者・団体ヒアリング・アンケートを通して、当該システムに関するニーズを抽出するとともに、運営に係る課題・目標を整理する。

■実証実験で得られた成果・知見

①まちづくりに係る官民データの一体的な利用環境の整備

- 成果1：「データ取引市場」試験版の構築：API経由でデータの公開・取得が可能なシステムの構築
- 成果2：NGSIによるオープンデータの公開：地下鉄乗車人員データ等
- 成果3：システムの課題抽出：データの用途の制限の必要性等

②データ利用環境の持続的な利活用・運営に向けた事業モデルの検証

- 成果1：事業者アンケートにより、市の事業者のデータ購入頻度や手数料・利用料等の支払い意思額を把握
- 成果2：事業者ヒアリングにより、具体的なデータ提供・販売のニーズ(自動車の走行データ、個人の消費状況データ等)やまちづくりにおける地域団体との連携可能性を抽出

■今後の予定

●データ取引市場のシステムアップデート

- データ連携先の随時拡充、データ利活用事例の紹介等の付随的機能の追加

●データ取引市場の運営モデルの継続検討

- 行政補助によるサービスのスタート支援、協議会・勉強会等における規約・機能等に関する継続検討

●関連する取り組みの展開

- データ利活用促進のための地域連携、関連するスマートシティ・まちづくり施策との連携